

句集
八重櫻



吉野のぶ子

八重櫻父の慈愛に触れにけり

イヤリング素直にゆれて花の中

夜の秋の能くれなゐに乱舞せり

色あせぬ恋にも似たり鶏頭花

時雨忌やさらにまぶしむ空のあり

ひとひらの和紙よりうすき冬櫻

ちからある山の音して夏匂ふ

未来ある子に向日葵のやうな夢

幾尾根を越えて夏野を近くせり

蕪村の忌学ぶ心をととのへし

少しだけことばのほしき寒牡丹

叫びたき思ひを羽子にたくしけり

青霞して一睡の千枚田

午前二時夫の机の春燈

緑蔭にゐてなほ遠き嶺望む

天 高 し 白 一 色 の 博 物 館

慈 し む 櫻 観 る の は こ の 衣

黄 水 仙 一 所 に 秘 め し 文 の 束

星 降 れ ば 星 の いる な り 春 の 海

真 清 水 を 含 み 千 段 登 り き る

この紅葉永遠に栞りて旅惜しむ

一嶺の紅葉は我のしるべかな

大枯野意地の一句の出来るまで

露草に屈みて胸を濡らしけり

藍浴衣鼻緒と帯は赤くして

父在らば今でも通す白緋

流星や口には出せぬ言葉あり

初旅や大海原へ切符買ふ

略歴

吉野のぶ子（よしの・のぶこ）

1939年3月15日 埼玉県川越市に生まれる

1983年6月 小澤克己に師事

1992年5月 「遠嶺」入会

1993年5月 「遠嶺」同人

1999年5月 「遠嶺」高嶺集同人

句 集 八重櫻 本阿弥現代俳句シリーズ

2000年7月25日 初版

定価：本体 2800（税別）

著 者 吉 野 の ぶ 子

発 行 者 本 阿 弥 秀 雄

発 行 所 本 阿 弥 書 店

B 6 版 二句組

序 小 澤 克 己